新入会員現地研修会～浜松まつり会館～

４月２日研修部主催による、平成30年度新入会員９名の内８名の参加を得て、浜松まつり会館にて現地研修会を実施しました。

鈴木利雄研修部長の挨拶と概要説明の後、髙橋正詔浜松まつり会館館長の歓迎挨拶を受けました。

研修順路は、ハイビジョンルーム⇨凧糸製造室⇨大凧展示室⇨御殿屋台展示室の順で研修です。

屋外に出て「いのち山」、さらに「防潮堤」の見学をしました。

ハイビジョンルームでは、約８分間の「浜松まつりダイジェスト映像」の観賞をしました。

「浜松まつりダイジェスト映像」の観賞

凧糸製造室では、凧糸の原材料である麻を、直径5mm、長さ200mの一かせ(ひとかせ:糸の数量を数える時の単位)の製造過程の説明がありました。原材料である麻は中国産の麻を使用しているとのことで、価格は一かせ69,000円で、国産の麻だと20,000円ほど高くなるとのことでした。

この凧糸は、凧揚げ合戦の時に不公平が出ないように、みな同じ規格で作られているとのことでした。

凧糸の繋ぎ(つなぎ)かたには、２人で１時間程かかり、町内ごとに技術が伝承されていて、その技法は“門外不出”とのことです。凧糸の購入や、凧糸の繋ぎかたは合戦の勝敗に左右するとのことで、長年経験したベテランの目利きが選び、ベテランの手によって繋がれた糸は丈夫で長持ちし、未熟な若手の凧糸の購入や、凧糸の繋ぎは長持ちしないそうです。ベテランから若手への“技術伝承”が大切であることが分かりました。

今回、私が一番興味を持ったのが「テギ」でした。テギは「合戦に最も重要な武器」であり、凧糸を手繰る(たぐる)ための滑車(かっしゃ)で、昔は木製でしたが現在は金属で出来ています。研修部の杉本忠久さんが、テギと凧糸を持参して模範演技（右の写真参照）をしてくれました。

重要なことはテギを持っている人は、揚がっている凧を見てはダメということで、滑車と凧糸の角度が水平になるように視線を集中しなければならないということでした。

杉本さんの「テギ」の使い方模範演技の様子

研修会に参加された皆さん(まつり会館南側にて)

まつり会館屋内での研修会終了後は、「いのち山」や工事中の「防潮堤」まで足を延して見学をしました。

防潮堤が出来る以前は、道路を渡ればすぐに海岸線を眼前に見ることが出来ましたが、今は見えなくなってしまいました。

この防潮堤を見た人の感じ方によっては、「自然景観の損壊だ！」と思う人がいるかもしれませんが「自然と人命どっちが大事なのか？」と問われれば「人命だよ！」“そだね～”と答える人が多いのではと思いました。

広報部　小池輝夫（東ブロック）

新入会員現地研修会～家康の散歩道（前半）～

新入会員研修〈家康の散歩道・前半〉が、４月９日午前９時半に遠州鉄道遠州病院駅前に集合して実施されました。研修部の桶田忠正さん(東ブロック)を先導に、新入会員８名と各ブロックの研修部員総勢24名が現地研修へと出発しました。

「百聞は一見にしかず」本日の研修コースは以下の通りです。

1．二代将軍徳川秀忠公誕生の井戸

2．浜松八幡宮：社務所建設中で参道の入口はCGプリント風の樹林柄の幕で覆われていました。コンクリートミキサー車が稼働する中、樹齢千年を超える雲立ちの楠、ざざんざの松に迎えられました。浜松城鬼門鎮守として町の中のお宮の森です。

句碑「はま松は 出世城なり 初松魚(はつがつお)」俳人松島十湖は、明治、大正期に第二の芭蕉といわれました。道筋にある椿姫観音堂は元浜町自治会会員の皆さんにより清々しく維持管理されています。

3．天林寺：総門、鐘楼等は昭和40年以降に再建、いずれも総欅造りです。境内には地元由来の方々の像が、墓地には高力長房や、元新撰組隊士中島登などの墓があります。

天林寺 中島登の墓前にて

4．ホンダ発祥の地（蛇屋敷）：戦後、本田宗一郎のオートバイ工場起業の地。

江戸時代は湿地帯で、沢山の蛇が生息していたらしいです。商いの神として商人にあがめられました。

5．玄黙口～東照宮：鳥居の扁額は、19代徳川家広氏の筆によるものです。

6．大手門前～五社神社：二代将軍秀忠公の産土神が祀られ大正３年に国宝建造物となるも、昭和20年の戦災で焼失。戦後、諏訪神社と合祀、新たに昭和57年に再建されました。境内の大狛犬は日本一の大きさと言われています。

7．心造寺～出丸跡（現中央図書館）：石川倉治顕彰碑（点字考案者）、徳川家康家臣団鳥居元忠屋敷跡標柱を確認しました。

8．鎧掛けの松

以上のコースを巡り12時30分に解散しました。

私も２年前に参加した研修コースですが、新たな発見が沢山ありました。今回は広報部員として同行取材させていただき、皆さんのご協力とお心遣いをいただき感謝いたします。

全国的な異常気象で満開の桜に雪が降り積ったり、記録的に大量な花粉が発生したり、悩ましい日々が続いていますが、この日の浜松は新緑とハナミズキが白やピンクの花を咲かせていました。

新入会員は、研修部員からのほぼマンツーマンの補足説明を受けて充実した様子でした。

笑顔で語る小池さん

中ブロック小池孝幸さんに感想を伺いました。

「在職時代30余年八幡宮近くの事務所に勤務していましたが、八幡太郎義家や家康に由来する楠があるなんて知りませんでした。ざざんざの松伝説があることも知りませんでした。在職時代の歓送迎会でよく行った店の前に椿姫観音堂があることも・・・。

天林寺の保育園に子供を預かってもらっていた時期がありましたが、総門や鐘楼をしっかり見たことはありません。又、高力長房や中島登の墓などは、ガイドの会に入らなければ知る由もありません。

本年１月の『新人養成講座』から今回の『家康の散歩道』と各種の研修が続いています。毎回の研修がとても新鮮です。

今まで単に見ていただけの風景が、先輩の皆さんと歴史地区を巡り解説をお聞きしているうちに『お宝スポット』に変化してまいりました。

先輩の皆さん、これからもご指南のほどよろしくお願いします」。

笑顔で語る小池さんはガイドにぴったりとお見受けしました。

広報部　藤田礼子（中ブロック）

「浜松オート」の視察研修会に参加

3月13日、北ブロック主催の浜松オート（市オートレース場）の視察研修会に参加しました。北ブロックから8名、その他各ブロックからの参加もあり、全員で23名のにぎやかな会となりました。

浜松オートは、市が昭和31年5月に開設以来61年間にわたり、貴重な税外財源として市政運営に大きく貢献しているとともに観光施設としても誘客に貢献していることから、観光ガイドとしても市政協力の一助とできるよう見聞・体験を広める為の研修でした。前日の新聞記事によると市は、オートレース事業の民間委託契約を本年度から新たに5年間更新するが、メインスタンドの改修という先送りしてきた課題が待ち受けているとのことでした。

特別スポットでの集合写真

当日は、10時30分に浜松オート正門入口に集合し、施設職員の案内で正面スタンド3階の来賓室にてレクチャーを受けた後、2部屋に分かれてレースの見学等を行いました。レースの予想、投票券の記入の仕方等を体験できました。

5レース終了後の13時から、職員の案内で選手ロッカー室内、走路のスタート地点の見学及び走路内からのレース観戦を行いました。ロッカー室は、地元選手用と他オート場所属の選手用と2棟に分かれており、地元選手用は96室がそれぞれ選手に割り当てられております。レーサーは、このロッカー室に自分のオートバイを保管し、1日1回の出場に備えて部品の点検・交換・整備等を行い、レース前に検査場にて合格判定を受けて出場が許可され、試走はコース外の所定エリアで行います。特別な作業員はいないため、必要に応じ選手同士がお互いに助け合って作業を進めるとのことでした。尚オートバイは、選手に採用された時に、自分で購入し維持するそうですが、スタートボタンも計器もクッションもブレーキも付いていないスピード重視のもので、タイヤも3～5回のレースで交換するそうです。

走路内観戦

次に走路のスタート地点に案内されました。スタートラインは、ハンディ0～60mまで10m間隔で設定されており、選手の実績等により配置が決定されるとのことですが、スタート時点の反則判定のための工夫もされています。その後コース内側のカーブ付近の特別席でレースを観覧、予想外のスピードと爆音の迫力に圧倒されました。

最後に元SMAPメンバーの森且行選手が、昨年11月4日にテレビ放映で元SMAPの3人と数年ぶり再会したというスポットで集合写真を撮っていただき、14時過ぎに解散しました。　　広報部　植田善和（北ブロック）

富士宮の静岡県富士山世界遺産センター

富士山世界遺産センター

昨年12月23日に開館したばかりの富士宮の静岡県富士山世界遺産センターへ行ってきました。(以下センターと略す)。

天気予報が一日晴れなのを確かめ、早朝浜松を経ちましたが、富士宮では空全体が曇っていていました。センターは富士宮駅から徒歩8分の所にあり、少し北に歩くと「富士宮やきそば」が食べられる「お宮横丁」、「湧玉池」で有名な浅間大社です。センターは富士山を逆にした形の斬新な建物と大鳥居からなり、その大きさには圧倒されました。

センター最上階のホール

内部は1階から5階（最上階）までらせん状のスロープが続いて、側壁は長細いスクリーン。そこに様々な富士山の景色が映し出されます。

もし天気が良ければ最上階のホール及び屋外テラスから雄大な富士山が眺められるはずなのですが、午前中はずっと曇りで全く富士山は見えず非常に残念でした。かわりにセンターの前の池に映った富士山（センター建物の影）は見ることはできました。このセンターの一番の売りは富士山の絶景だと思います。冬の天気の良い日に再度センターを訪れてリベンジしたいと思いました。参考までに入館料は、300円でした。　北ブロック　花尾四郎

新入会員の入会動機

昨年の直虎ドラマでは観光ガイドを３か所（気賀関所、遺産センター、龍潭寺）で経験し、沢山のお客様と接する中で張り合い、やりがいといった充実感を味わいました。今年１月にその役割は終了しました。

その頃、自分は１年間を何かの形で総括する必要を感じていましたが、特に周囲にその機運も見られず、不満を感じていました。そんな折、浜松観光ボランティアガイドの会へのお誘いをいただき、研修に参加することになりました。研修が２回、３回と進むにつれ、この会が実は直虎から家康という発展的な総括になることに気がつきました。引佐・細江という１地方から浜松市にとどまらない全国的な広域化、人物関係の広範囲化，戦のダイナミズムの全国化、歴史的な長期化など自分の求めていたことがこの会にあると認めることができました。直虎観光ガイドの飛躍的発展としてこの会に入れていただきたいと希望いたしました。

北ブロック　曽布川　保

私は、昔から国内・海外の歴史に興味がありまして、歴史書や歴史ドラマが大好きです。

浜松は多くの武将が活躍し、歴史遺産も数多くあります。

浜松の紹介や案内をするボランティアガイドの会があると知人に教えてもらい入会しました。今後、諸先輩の知識をさらに吸収し、自習・見学により楽しく案内が出来るよう努めてまいります。

中ブロック　丸島伸次郎

昨年あたりから、年が明けるとすぐに古希になるのでこの期に、健康で充実した残りの人生を過ごすために、現状の生活（スキー・太極拳等）を維持していくだけではなく、何か新しい事を始めたいと考えていた時に、浜松市広報の観光ボランティアの会「会員募集」の記事をたまたま見つけ、申し込みをしました。が、受講してみると想像していた以上に覚えることが広範囲に亘ること、又私は語学ができるわけではないのでこのまま入会して継続できるのか悩みました。

しかし、浜松に居住して 46～47 年になりますが、自分の住んでいる地域のことは殆ど何も知らずに過ごしてきましたので少しでも自分の知識が深まり、人との新出会いが増えれば良いかと自分の勝手な解釈で、ここまで受講したのだから継続しようと考え入会しました。　西ブロック　戸塚　博詞

３月のガイド活動　≪明るく楽しくやらまいか≫

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この３箇所の他に「浜松駅観光インフォメーションセンター」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

≪浜 松 城≫

複数回来場のあった団体		
＊ 戦国時代の東海７城めぐり２日間	７回	761 名
＊ 阪急交通社東京支店	７回	282 名
＊ クラブツーリズム	３回	65 名
＊ 春の東海名城めぐり	２回	70 名
＊ ＪＲ東海ツアーズ国内旅行部	２回	42 名

３日	土	立石はすやす旅行会	140 名
４日	日	三建設備工業㈱	46 名
７日	水	開誠館高校	62 名
15 日	木	しずおか大井川鐵道と伊豆	40 名
16 日	金	聖隷クリストファー	40 名
18 日	日	ボーイスカウト浜松 12 団	55 名
23 日	金	ロイコスプレスクール	60 名
＊		上記以外に 40 名未満の 21 団体	736 名

≪犀ヶ崖資料館≫

３日	土	湖西古城の会	15 名

≪浜松まつり会館≫

３日	土	一宮貴船連区町会長会		40 名
＊		日曜対応	４日	341 名

はままつ案内人会報　１９３号

編集・発行　浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946

浜松市中区元城町 100-2　(浜松城内)

ＴＥＬ＆ＦＡＸ　053-456-1303

ホームページ　http://www.hama-svg.jp/

浜松観光ボランティアガイド　検索